

教育委員会だより

学校教育推進の重点(学校別紹介)

第11回「関宮小学校」

環境問題に取り組む

「関宮こ子」

昨今、地球環境の危機が叫ばれており、世界規模で異常気象が発生しています。この大きな問題について、身近な地域の自然を教材として、子ども達の教育に生かしていきたいと考えています。

関宮小学校は平成17年度から2年間、県指定の「森の環境教育実践推進校」の指定を受け、数々の活動に取り組んできました。

まず、自分たちの環境を知ることから始めようと、春の遠足は氷ノ山国際スキー場で山菜採りを行いました。関宮っ子でもワラビとゼンマイが分からない子もたくさんいます。雪解けの山々の生命力に感動し、大切な山を守ろうと雪が解けたスキー場のクリーン作戦も行いました。

低学年の取り組みとしては、地域のお年寄りの方々にイタドリを使った水車や笛の作り方を教えていただいたり、野に咲く草花を使った草花遊びや押し花作りもしました。その他にも、カブトムシを育てたり、色紙や豆の葉柄で昆虫を作ったりしました。

中学年は、自然環境を生かした特産物「轟大根」を育てたり、「もったいない」をテーマに自分達の身の回りで無駄がないかを調べ、生活に生かすように取り組みました。

高学年は、氷ノ山から湧き出る豊かな水で米作りをし、田んぼに生息する生物調査や八木川の水生昆虫調査も行いました。また、氷ノ山紅葉登山大会に参加して、土壌生物調査を行って森の生態系を学びました。

また、専門の先生をお招きし、鉢伏高原・氷ノ山に生息する生き物について植物観察や図鑑作りをしたり、森林組



シイタケの菌糸植え

合のご協力による森林学習(下刈り、枝打ち)では、シイタケの菌糸植え、丸太切り競争をするなど、楽しく、思いつきり汗をかきながら環境について学習してきました。

関宮という自然に恵まれた環境にありながら、子ども達は自然からどんなに離れていく生活をしています。そんな子ども達だからこそ、今、体験的な学習を通して自然を見つめ直す機会になればと思っています。

これからも、関宮の自然の素晴らしさを地域の方々から教えていただき、ふるさと関宮の環境保全などに取り組む、実践的な態度を育てたいと考えています。

(学校長 中村晴敏)

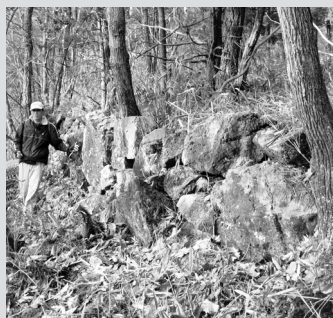
まちの文化財 ③

尾崎天王山城跡

養父市尾崎には、天王山城(別名/横尾城)と尼ヶ城という二つの山城があります。天王山城の場所は、尾崎区と和多田区の間にある国道9号線に張り出した小山です。主な曲輪(城を形づくる平坦な造成地の総称)は主郭(江戸時代には本丸と呼ぶ部分)だけで、主郭の規模は南北50[㍎]、東西16[㍎]あります。

主郭には、氷ノ山側にあたる西側だけに高さ1[㍎]の石垣を築いています。長さ50[㍎]、幅30[㍎]ほどの石材を、横方向に目地を通して3段に積みます。こうした大きな石材を利用する城郭石垣は、八木城や竹田城などにしかありません。石材の裏側が薄いのが欠点ですが、竹田城よりも15年ほど古いもので、織田信長時代の城郭石垣として大変重要なものです。

和多田方向にあたる東側には、幅2[㍎]ほどの細い帯曲輪(細長い曲輪の総称)があります。城郭の北側と南側をつなぐもので、主郭を通らずに城郭の南側から北側に武将を移動させるためのバイパス機能をもっています。



天王山城跡

尼ヶ城は、天王山城の南西に1[㍎]離れた八木川の対岸にあります。大きな主郭があるだけの単純な縄張りですが、主郭を守るように半円形の帯曲輪が造られています。石垣はありませんが、縄張りの共通点からみて、天王山城と同時期にセットで利用されたと考えられます。

天正8年(1580)4月、但馬勢は羽柴秀長によって攻め滅ぼされました。八木城主の八木豊信も羽柴秀吉の家臣となって鳥取攻めに従軍しました。

天正9年10月に鳥取城が落城するまで、氷ノ山山系は鳥取城防衛網の最前線でした。小代勢など鳥取城支援軍は、横行から大屋に攻め込んでいます。

天王山城と尼ヶ城は、鳥取城落城までの羽柴勢の前線基地となったのではないかと。このため、但馬では珍しい縄張りの山城が、二つも作られたのではないかと推測しています。(社会教育課)